

感染第2波に直面するインド金融市場

特定の地域で感染者数が拡大

インドの新型コロナウイルス新規感染者数は、3月後半から急増しており、5月1日に1日あたりの新規感染者数が初めて40万人を超え、現在も予断を許さない状況が続きます。一方で、新規感染者が特定の地域に集中していること、第2波での感染死亡率が第1波時よりも低いことから、行動制限措置は特定地域のみでの実施に留まっています。とりわけ、感染の集中するマハラシュトラ州（州都ムンバイ）では、4月下旬より講じられている「事実上の封鎖措置」が功を奏し、感染拡大の局面はピークアウトに向かいつつあるようです。

経済に与える影響は限定的か

インドの経済活動の状況を示す「野村インド事業再開指数」は、移動量関連データに落ち込みが見られますが、全土封鎖が実施された感染第1波の際よりも、底堅い推移となっています。電力需要や労働参加率の水準は概ね横ばいとなっており、感染第2波の経済に与える影響は限定的であるとみています。

期待されるワクチン接種の加速

今年1月より開始された、国民へのワクチン接種は、堅調に推移していましたが、足元では感染第2波による医療体制の混乱や輸送問題等を背景に、接種ペースが停滞しています。とはいえインドは、世界有数のワクチン製造能力を持つワクチン製造大国であり、米国や中国に先立ってワクチンの累計接種回数が1億回を超えています。モディ政権のワクチン接種に積極的な姿勢に加え、5月5日にRBI（インド準備銀行）が発表した、ワクチンメーカーへの新規貸し付けや医療サービスへの与信拡大措置等は、ワクチン接種を加速させるうえでの、新たな期待材料になりそうです。

図1：インドの新型コロナウイルスの感染状況

期間：2020年3月20日～2021年5月10日、日次

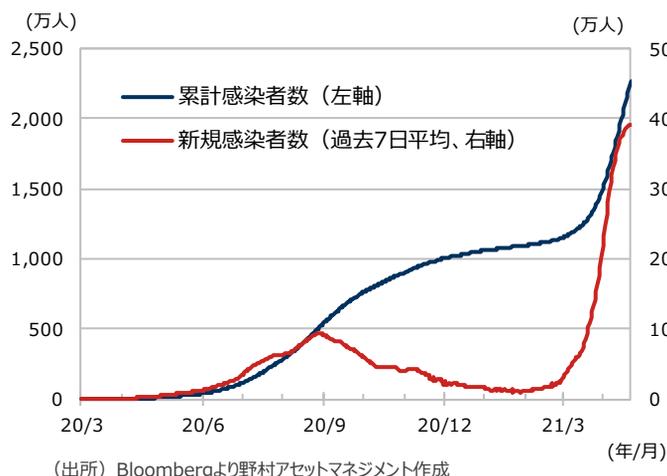
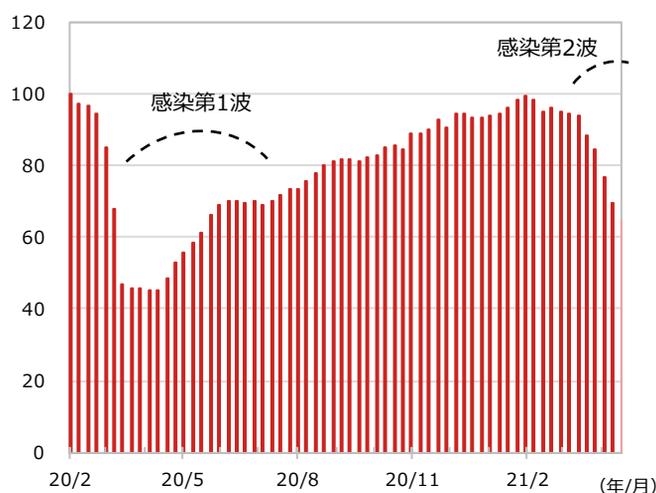


図2：インドの経済活動動向

期間：2020年2月23日～2021年5月9日、週次



野村インド事業再開指数には、Google移動量指数、Appleの自動車運転移動量指数、電力需要、労働参加率が含まれる。Google移動量とAppleの自動車運転移動量指数は、7日間移動平均。すべての系列は20年2月23日を基準とし、その後のデータを指数化している。2月23日以前のGoogleの移動量データは100とみなす。

(注) Google移動量指数は他の指標に比べ1週間程度の遅れを以て発表されるため、直近値は他の指標と同程度変化しと推定。直近週のGoogle移動量指数が一時的に更新されていないとみられるため、直近値は暫定値。前週の値を用いて指数を算出した。

(出所) 野村証券金融経済研究所からの提供データより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

感染第2波に直面するインド金融市場

株式市場：感染第2波に冷静な反応

年初来のインド株式市場はレンジ圏で推移しており、先進国株式との乖離もそれほど大きくなく、感染第2波による、経済への影響がいまのところ限定的であるとみているようです。実際に、第2波の影響から注目された4月のPMI（購買担当者景気指数）は、製造業・サービス業ともに、景気判断の節目とされる50ポイントを上回る良好な数字を示しました。また、感染第2波を背景に、海外投資家が売りに転じた一方で、自国の成長に期待する国内機関投資家が買い越しに転じたことが、下落幅を抑えている模様です。今後は、3月期の決算で示された堅調な企業業績や、モディ政権の積極的な景気浮揚策、ワクチン接種の加速などが、株価底上げのポイントとなりそうです。

債券・為替市場：RBIが安定推移を下支え

5月5日、RBIは前述した医療体制への支援に加え、中小企業向けへの新たな融資救済措置や、国債の購入、5,000億ルピー規模の追加資金供給等の金融緩和政策を行なうことを表明しました。同表明に伴い、インド国債利回りが低下したほか、4月上旬以降、やや不安定な動きが続いていたインドルピー相場も回復に向かっています。インド国債利回りは、RBIが国債の購入を計画していることで、引き続き安定的に推移することが予想されます。また、豊富な外貨準備高や経常収支の改善等、インドの良好なファンダメンタルズが下支えとなり、通貨ルピーの動向も安定的に推移すると見えています。

図3：インド株式の推移

期間：2019年12月31日～2021年5月10日、日次



インド株式：MSCIインド・インデックス（配当込み）
先進国株式：MSCIワールド・インデックス（配当込み）
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図4：インド債券（5年国債）利回りの推移

期間：2019年12月31日～2021年5月10日、日次



図5：インド為替の推移

期間：2019年12月31日～2021年5月10日、日次



当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。